

「迷駅」から「名駅」へ

名古屋駅(名駅)はわが国有数の巨大ターミナルであり、大都市名古屋の玄関口である。ここ 10 数年余りで、名駅の上にタワーズが建てられ、駅周辺にも高層ビルが林立するようになった。まさに「迷駅」といわれるように、鉄道間の乗り換え、案内が分かりにくい状態が続いてきた。名古屋の観光などの議論でも、いつも話題になってきた。

ここにきてリニア開業を見据え、名駅と周辺地区のまちづくりが注目を集めるようになってきた。9月に名古屋市が「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定した。目標とするまちの姿は「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ~国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち」である。まちづくりの基本方針として4点掲げる。

- 1 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す、
- 2 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる、
- 3 都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく、
- 4 リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する。

写真上は基本方針2の関連図である。とくに東西ネットワークの強化として、「乗換空間(ターミナルスクエア)」が提案されている。写真下は主要プロジェクトのスケジュールイメージを示している。だ円状に囲んだ区域で、都市再生特別地区を活用した民間再開発をすすめる。駅東西でリニア駅周辺の面的整備を構想し、東は「名古屋駅地区街づくり協議会」、西は「名古屋駅太閤通口まちづくり協議会」の名前があがっている。

今回のまちづくり構想により、評判のよくない「迷駅」から、文字通り「名駅」に転換できるであろうか。名駅にはJR・名鉄・近鉄・地下鉄、あおなみ線が乗り入れており、乗り換えの利便性がとりわけ重要だ。鉄道間の密接な連携が必要であり、とりわけJR 東海の役割が決定的に大きい。これまでの経緯をみると、必ずしも連携がとれているとは言いがたい。基本方針4のように、名古屋市をはじめとした行政と民間が一丸となって推進することが求められる。

リニア開業に向けて、名駅の東西(広小路口と太閤通口)のまちづくりも大切だ。とくに西側の太閤通口は、東側との「差別化」を図るうえからも、「ゆとり」をもった空間を期待したい。超高層ビルに囲まれ、圧迫感のある東側とはひと味違う、アメニティが豊かな都市空間になれば、「スーパーターミナル・名駅」の魅力が増すであろう。

(2014年11月28日)

